

6次産業の祖 前田正名

～農業を軸にした地方産業振興を促進～

フランスで民間・地方による維新を学ぶ。

国の再興の鍵は「農業」と確信した留学。

薩摩藩の英国留学生のメンバーからは漏れた正名は、戊辰戦争の最中、上海に渡り、明治元年（1868）高橋新吉、兄の前田献吉と「薩摩辞書」と呼ばれる『和訳英辞書』をつくった。その辞書の売り上げで、1869年からフランスへ私費留学を果たした。滞在中に普仏戦争を体験、負けたフランスが農業を保護、貿易を行い再興していく姿を見て、日本へ応用しようとした。帰国の際、ヨーロッパの果樹、穀物など1,000種以上にも及ぶ植物の種苗を持ち帰り、薩摩藩下屋敷跡に三田種苗場を開設。再度フランスへ渡る際、山梨の青年2人を伴い、ブドウ栽培やワイン醸造を学ばせるなど、国産ワインの礎を築いた。

“グンゼ(株)”は「郡是(地域振興計画)」！？

養蚕業発展と地域振興を促した地域計画運動。

明治28年（1895）養蚕が盛んな京都綾部市を訪れ、「今日の急務は国是・県是・郡是を定むるにあり」と演説。感動した波田野鶴吉は、「郡是は養蚕業の振興」と考え、翌1896年郡是製糸株式会社（現グンゼ）を興した。波田野の思いも地域農民の所得向上であり、会社設立時には農家から出資金を募った。その際一株20円として農家がいやすい価格を設定し、分割払いとした。まさに農家主体の大衆的ベンチャー企業興した。また、福岡県八女地方でも郡是による産業振興が行われ、八女茶や和紙など特産品や地場産業が発展した。



出典・参考

「前田正名」(祖田修・吉川弘文館)
地域計画の運動の原点は“グンゼ”・“郡是”（糸乗貞喜）
Wikipedia



前田正名

〈略歴〉

出身：嘉永3年(1850)、薩摩藩士の漢方医前田善安の末子6男
薩長同盟の密使に加わり、坂本龍馬から短刀を貰う。

出版：明治元年（1868）『和訳英辞書(通称：薩摩辞書)』を発行。
売上を元にフランスへ留学。

業績：明治9年（1876）に帰国、翌年、三田種苗場を開設。明治14年（1881）大蔵省・農商務省在職中に国内産業の実情を調査、殖産興業のための報告書「興業意見」全30巻にまとめて提出。明治21年（1888）第七代山梨県知事として赴任。簞笠姿で行脚。殖産興業を推進し、甲州葡萄を普及した。